

不安を抱える女性への寄り添い相談支援事業【群馬県】

総事業費	14,999 千円
交付金額	11,249 千円

地域の実情と課題

実情

- ・群馬県では非正規で働く女性が多い。
- ・長引くコロナ禍で、女性への影響(雇用不安、心身の不調、家事の負担)が顕著であり、長期化している。

課題

- ・コロナ禍における女性の不安や困難の解消のための支援が必要
- ・根強く残るジェンダーバイアスの解消の取組

事業の特徴

- ・事業実施期間 令和5年4月～令和6年3月
- ・県内を3地域(中北毛・西毛・東毛)に分けて、女性支援に実績のあるNPO法人に委託し実施。
- ・電話相談に加え、SNSやメール、来所相談を受け付け
- ・訪問支援や市役所等の手続きのための同行支援
- ・ワークショップなどによる居場所づくり
- ・相談員のスキル向上や人材育成・養成のための研修

事業の効果

- ・事業目標の達成状況
本事業で対応した相談者数 1,477人
連携体制の構成員数 17団体
- ・事業の効果
受託NPO法人3団体とも法人の持つ知見を活かし、行政では手が届きにくいきめ細かな相談を実施することができた。
団体のリソースを活かしたアウトリーチ支援、同行支援、居場所づくりの提供を行うことができた。

目的・目標

目的

- ・コロナ禍のなかで、困難を抱える女性の心身のケアや、経済的不安を解消するとともに、相談をきっかけに、困難を抱える女性を最適な支援機関につなぐことで、根本的な解決に導くことを目的とする。

目標

- ・本事業で対応した相談者数(アウトプット)850人
- ・連携体制の構成員数(アウトプット)18団体以上

連携団体

- ・「群馬県女性相談支援ネットワーク会議」(「ぐんま・ほほえみネットネットワーク会議」)の構成団体
社会福祉協議会、民生児童委員協議会、子ども食堂ネットワークぐんま、市町村、県女性相談支援センター、民間DVシェルター、県男女共同参画センター、県こころの健康センター、児童福祉課(児童相談所所管)、国労働局職業安定課、ハローワーク、委託先NPO法人

今後の課題

- ・ワークショップなどアウトリーチ型の居場所づくりと併せて、いつでも寄れるという安心感をもてる常設型の居場所の提供が必要。
- ・若者のSNSを利用した相談が少しずつ増えているが、若年層への周知が不足しているため、更に小中高生や大学生へ周知を図る。
- ・団体における内部研修を継続するには、実施するリソースが不足しているため、県と連携を図り研修を実施していく。

事業の概要

不安を抱える女性へのつながりサポート相談支援「ぐんま・ほほえみネット」

女性に寄り添った相談

○NPO法人等へ委託

- ・電話やSNS・メールによる相談、アウトリーチ、同行支援
- ・ワークショップなどによる女性の居場所の提供
- ・ちらしやカードによる相談支援の周知広報
- ・生理用品を相談者に無償配布
 - ⇒ 女性用品等の配布をきっかけにして支援につなげる。
- ・相談員のスキル向上や人材育成・養成のための研修会実施

○委託期間

令和5年4月～令和6年3月

周知カード・ちらし



全県配布ちらし (県作成)



ぐんま・ほほえみネットネットワーク会議

○会議内容

- ・委託先NPO法人の活動状況報告
- ・関係機関からの情報提供
- ・事例紹介
- ・課題解決へ向けた意見交換等情報共有



(活動状況報告)



(関係機関情報提供)

